

今後の山岳トイレし尿処理技術実証試験にかかる課題

	項目	課題	対策
1	山岳地特有の自然条件	設置場所によって、自然環境がかなり異なる。そのため、なかなか画一的に実証できない。	対象技術の実証とともに、実証試験を行った場所の山岳環境データも可能な限り把握し、実証データとして蓄積する。
2	実証試験の考え方	過酷な条件下のもとで実証することが必要となるため、様々なケースでの実証が求められる。	(技術ごとの公平性がどこまで担保できるかについては引き続き検討が必要)
		設置したばかりのトイレでは、汚泥等の蓄積や実際に必要なメンテナンス状況、稼動状況等を把握しにくい場合がある。	既に設置され稼動しているトイレを重点的に実証することについて検討する。
3	実証項目	室内環境を実証する上で、利用者の意向を把握する必要がある。	実証期間の集中時において、利用者の満足度を把握するため、ヒアリング等の実施について検討する。
		山岳地は車道がない場合が多いため、専門管理者等が頻繁に現場にアクセスすることは容易ではない。山小屋管理者等でも維持管理性能の把握ができるような手法の検討が必要である。	日常および専門管理者が維持管理性能を把握するためのチェック票を作成することについて検討する。
4	費用負担	トイレを新設する場合、山岳等の車でのアクセスが困難なエリアにおいては、実証申請者の搬送・設置・運営費用負担が大きい。	費用負担が大きい場合は、既設トイレや、試験的導入が予定されているトイレを中心に実証試験の実施を検討する。
5	実証体制	試料採取や分析、維持管理に関係する団体への実証対象技術に関する情報が不足している。	山岳トイレし尿処理技術に関する整備状況や開発状況に関して、広く情報提供できる体制について検討する。
6	実証対象機関	公益法人や NPO 法人が実証機関となった場合のメリット・デメリットの整理と試験要領への反映。	調整中